

国際フォーラム「ネパールの開発と観光年 2011 の推進をめざして」に参加

(株)第一コンサルタンツ社長 右城 猛

まえがき

お釈迦様の生誕地であり東洋文明発祥の地であるネパールでは、2011 年を国際観光年と定めて、日本の数カ所で観光フォーラムの開催を予定している。中国・四国地域では、10 月 11 日(火)の 14 時より愛媛大学南加記念ホールで国際フォーラム「ネパールの開発と観光年 2011 の推進をめざして」が開催された。

当社からは西岡南海男常務取締役と私が参加した。落石対策技術研究会からは、日本プロテクト(株)の加賀山社長と有木取締役、愛媛三段ブロック(株)の越智征男氏、西日本金網から長谷川氏と高橋氏が出席されていた。

国際フォーラム(14:00～17:30)



巧みな英語と日本語で司会をされる愛媛大学の安原英明准教授



開会の挨拶をされる愛媛大学副学長で国際連携推進機構長の矢田部龍一教授。

矢田部教授は開会の挨拶で、元首相のマダブ・ネパール氏、前文部大臣のガンガラ・トゥラドハル氏、駐日ネパール大使館公使のドゥルガ・スベディ氏のこれまでの功績について紹介されると共に、愛媛大学が 2001 年からネパールの自然災害調査研究、ネパールの大学や国連開発計画事務所などと連携して国際シンポジウムを開催してきたという功績について紹介された。



「間近から見たネパールの政情問題と今後の開発課題」と題して英語で基調講演をされるネパール国の元首相のマダブ・ネパール氏。



「ネパールの教育の現状と今後の展望」と題して英語で特別講演をされるネパール国前文部大臣のガンガラ・トゥラドハル氏。



「アジア精神文明発祥の地・ネパールの持続的発展を目指して」と題して講演をされる愛媛大学理事・副学長で国際連携推進機構長の矢田部龍一教授。

矢田部教授は、以下のことを話された。

西洋の行き過ぎた個人主義は経済優先社会を作り、様々な地球環境問題を生み出した。経済発展の前に家族が忘れられ、自然環境が破壊されてきた。今一度、私たちは東洋精神の基本に立ち返って家族を大事にし、自然を大事にし、自然と共生する精神を取り戻す必要がある。

ネパールには家族主義、自然との共生主義が根付いている。経済的には遅れているが精神的には世界のトップランナーである。

ネパールが発展するためには、道路や空港などのインフラ整備とともに、命を大切にする教育である防災教育が大切である。ネパールは観光資源に恵まれている。日本人の「もてなしの心」を教育すれば、世界の規範となる観光業を確立することができる。



「ネパールはなぜ発展しないのでしょうか」と題

して講演をされる愛媛大学理工学研究科助教のネトラ・バンダリ氏。

ネトラ氏は、現地の写真をパワーポイントで紹介しながら、下記の説明をされた。

ネパールでは、土石流や斜面崩壊の危険性が高い斜面に多くの集落がある。道路はたくさん造られたが、災害に配慮されていない。ネパール人には、先進国とは時間感覚が異なるため、計画を立ててもなかなか実現しない。

成長している国の人口構成は労働世代が多いが、ネパールはピラミッド型の人口構成をしている。子供が多いので将来的には成長する可能性はあるが、現時点では20～40代の働き手が少ない。しかも若者の多くは、海外に出稼ぎに出ている。



「ネパールの観光年の推進に当たって」と題して発表される駐日ネパール大使館公使のドゥルガ・スベディ氏。

スベディ氏の講演は英語であったが、パワーポイントは日本語であったので理解できた。

ネパールの国土面積 14700km² の 83%は山岳地。人口は 2600 万人。60 以上の民族が 70 以上の言語を話す他文化・他宗教国である。2007 年に国王制が廃止され、連邦民主共和国になった。

識字率は 60%、GDP は 4 兆円、国家予算は 4000 億円、一人当りの年収は 5 万円、公務員の平均年収は 20 万円。現在の観光客は年間 50 万人、目標は 100 万人。

ネパールはヒマラヤと山だけではない。カト

マンズの世界文化遺産、お釈迦様の生誕地ルンビニ、チトワン国立公園など素晴らしい観光地がある。



閉会の挨拶をされる愛媛大学先端研究・学術推進機構プロテオ医学研究センター長の三木哲朗氏

このフォーラムは、今年の3月末に開催予定であったものが、3月11日の東日本大震災の発生により延期されていた。

フォーラムには、南加記念ホールがほぼ満席となる約200名の参加があり、盛会であった。

フォーラムの中で、NPO 法人日本さくら交流会事務局の脇坂隆之氏より、日本とネパールの更なる友好関係を深めるため、「日本・ネパール友好交流・桜植樹の旅 ネパール観光年2011」というツアーを企画している。11月21日に関西国際空港からキャセイパシフィック航空で出発する。300本の桜を各自がそれぞれネパールに持ち込み、11月22日にカトマンズで桜植樹式を行う。その後、カトマンズ市内やボカラを観光し、11月26日に帰国する。多数の方の参加を希望しているという案内があった。

ウェルカム・レセプション(18:30~20:30)

18時30分から道後温泉の大和屋本館に会場を移し、ウェルカム・レセプションがあった。



ネパールの民族衣装を着て司会をする愛媛大学矢田部研究室の中島淳子さん。ネトラ先生は通訳の係。



レセプションには、ネパールやインドネシアなどの留学生やその家族も参加された。

首に掛けているのはネパール国からレセプション参加者にプレゼントされた記念のシルクマフラー。



開会の挨拶をされる愛媛大学の矢田部先生。



挨拶をされるマダブ・ネパール元首相。40年間ネパールの政治に関わってきた大物政治家だけあって、貫禄が感じられる。



前文部大臣のガンガラ・トゥラドハルと記念撮影。写真右より愛媛三段ブロックの越智常務、家内、日本プロテクトの加賀山社長。



矢田部先生にマダブ・ネパール元首相を紹介していただく。



マダブ・ネパール元首相から感謝状と記念品の贈呈を受ける矢田部先生。



マダブ・ネパール元首相と一緒に記念撮影。写真撮影は西岡南海男常務取締役。



マダブ・ネパール元首相から感謝状と記念品の贈呈を受けるネトラ先生。

矢田部先生、ネトラ先生以外にも、ネパールとの交流に貢献された多くの方に、マダブ・ネパール元首相から感謝状と記念品、シルクマフラーが手渡された。



ネトラ先生の奥様と娘さんと記念撮影する私の家内。



留学生の奥様



マダブ・ネパール元首相、ガンガラ・トゥラドハルを囲んで記念撮影する留学生と家族。



閉会の挨拶をされる愛媛大学の岡村未来教授



ネパールの民族舞踊を踊るネトラ先生の長女。

あとがき

八木則男教授の定年退官記念事業の一環として、愛媛大学とネパール工科大学が主催で、地すべり対策に関する国際シンポジウムがカトマンズで開催されたのが2001年11月であった。

私は、この会議と2006年11月にカトマンズで開催された国際会議 DiMAC-2005 とに参加させていただいた。

今回の国際フォーラムを成功裏に終えることができたのは、矢田部先生、ネトラ先生、中嶋淳子さんのネパールに対する熱い思いと、10年間に及ぶ地道な努力の結晶に他ならない。矢田部先生、ネトラ先生そして中島さんに心より敬意を表します。